

●大事な体のコトを考える●

日々の健康医学講座



今号担当
今井内科胃腸科クリニック院長
今井 英人

第618回

健康管理に役立てよう

血液検査で肝機能をチェック

沈黙の臓器と呼ばれる肝臓ですが、血液検査では体に異常が現れる前からその変化を確認できます。

健康診断や病院での血液検査結果について、皆さんは十分に理解できていますか？せっかくだ行った検査です。その意味を理解して自分の健康に役立てたいですね。今回は色々な採血項目のうち、肝機能に関連したものについてご説明いたします。

●肝臓の様々な働き

- 肝臓の働きは主に次のようなものがあり、大変重要な臓器です。
 - ①食べた物の栄養を体で利用できるように作り替えたり貯蔵する。
 - ②体に不要な物を分解して排出できるようにする。
 - ③脂肪の消化吸収を手助けする胆汁を作る。
 - ④古くなった赤血球からできるビリルビンを胆汁に排泄する。
- これらの働きに異常が出ると血液検査値が変化することになります。

●沈黙の臓器が発するサイン

肝臓は沈黙の臓器と呼ばれ、元々の予備能力がとても高いため、その機能が少し低下しただけでは体に症

状が現れません。しかし、病気などで肝臓の機能が低下すると、体に異常が感じられる前から血液検査の結果には変化が現れます。医師はその結果を見て肝臓に何が起きているのか、危険がどの程度あるのかを判断しています。では、代表的な肝機能検査の項目について、その意味を説明します。

AST(GOT)・ALT(GPT)：これらは肝臓の細胞内を中心に作られる酵素です(ASTは心臓にも多く存在します)。肝炎などによって肝臓の細胞が破壊されると、細胞の中にあったこれらの酵素は血液中に漏れ出し、数値が高くなります。

γ-GTP：肝臓や腎臓で作られる酵素で蛋白質やアルコール、薬などを分解し解毒する働きがあります。胆汁の流れが悪くなったとき(胆汁うっ滞)に特に数値が上がりますが、お酒を飲み過ぎたときにも高くなる場合があります。

ALP：肝臓や腎臓、心臓など色々な臓器の細胞で作られる酵素で、乳製品やレバーなどに多く含まれるリン酸化合物を分解する働きがあります。胆汁中に多く含まれ、γ-GTPと同じく胆汁うっ滞時に特に数値が高くなります。また、肝臓以外では骨の病気などでも高くなります。

総ビリルビン：ビリルビンは古くなった赤血球が破壊されるときに作られる黄色の色素で、肝臓に集められた後、処理され胆汁中に捨てられます。通常、血液中にはごくわずしかなく、胆汁うっ滞が起これると数値が高くなります。ビリルビンの数値が高くなったときには、黄色の色素が体中にまわって黄疸という皮膚が黄色に変化する状態になります。

総たんぱく、アルブミン：血液中に含まれる蛋白質のことをいいます。血液の濃度を調節したり、血液中の色々な物質を運搬したりする働きがあります。肝臓の機能が低下すると蛋白が肝臓で作られなくなり数値が低下します。

※

以上を参考に、ご自身の結果を再度見ていただくことをおすすめします。なお、採血の結果で分からない点がある場合は、お近くの内科医にご相談ください。



●内科●胃腸科●小児科●老人科●人間ドック併設

医療法人

今井内科胃腸科クリニック

院長 今井 英人

〒465-0097 名古屋市名東区平和が丘5丁目27番地
TEL&FAX 052-771-3322(代)

